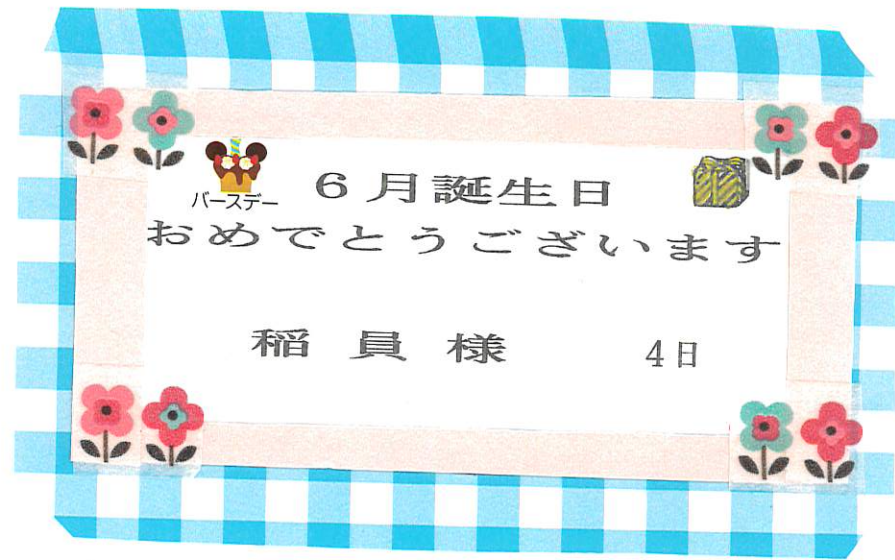


六月 水無月

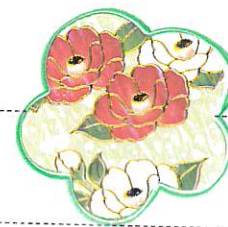
6月は水無月（みなづき）と言い「水の月」の意味で田に水を注ぎ入れる事に由来している。

5月の下旬から田植え準備のため、あちらこちらの田圃に耕運機が入り土を起こしていた。その後ろにシラサギやアオサギが 虫をねらってついて行く光景が見られた。今や鳥たちは、人間を怖がる事も 耕運機の大きな音にも動じる事なく えさを取るチャンスと思っているのだろう。そして今朝はその田圃になみなみと水が張られていた。まさに“水無月（みなづき）”である。

水無月（みなづき）の異名・・・常夏(じょうか)/涼暮月(ずくれつき)/蟬羽月(せみのほつき)/鳴神月 (なるかみつき)/小暑 (しょうしょ)  
誕生石・・・ パール 誕生花・・・ バラ/グラジオラス/牡丹



6月の暦



1日 衣替え

職場などでも半袖やノーネクタイでOKというところが多くなっている。クールビズといわれるが 和製英語なので外国の方には通じないので気をつけたい。

写真の日

写真で思いつくのは徳川家最後の将軍15代・徳川慶喜である。大政奉還で将軍の座を退いた後、大変カメラに凝って 風景/人物を撮影したものが沢山残されている。

6日 梅の日



室町時代・1545年4月17日(現在の6月6日)、京都賀茂神社の例祭に後奈良天皇が梅を献上された故事から「紀州梅の会」が制定。この梅が取れる季節なので梅雨と言われている事は広く知られている。昔は梅が青いうちに漬けていたが、熟した柔らかい実を漬ける事も多くなった。青い梅はアミグダリンという毒性を持っているが、漬けることにより分解され、胃腸の働きを改善してくれるエキスとなる。身体が弱ったときなどおかゆに梅干しは必須である。梅の毒だけでなく 猛毒のフグ毒-テトロドキシンも 数年ぬか・塩漬けにして毒を抜き珍味として食する日本人はすごいと思う。このようなことも 日本食が世界に認められる所以(ゆゑ)なのでは無いだろうか。

6日 芒種(ぼうしゅ)

穀物を植え付ける時期で今まさに農家が多忙を極める季節である。

16日 麦とろの日



麦もとろろ(やまいも)も食物繊維が多く整腸作用が有る。白米が主流の現在は毎日麦飯と言う家は少ないと思う。以前の麦は炊き上がりが黒くなりご飯がおいしそうに見えなかったが今の麦は余り目立たない。麦にはタンパク質・ビタミン等の含有量が白米に比べ多くカッケの予防や糖尿病の改善・ダイエット目的にも活用されている。一時期 麦とろ飯専門の食堂が流行っていたが、近ごろさっぱりみかけなくなった。

21日 太陽光発電の日

オゾン層の破壊や地球環境の改善の為 太陽光利用への期待が大きい。当営業所所在の小竹町ではあちらこちらで太陽光発電所の工事が行われている。竹林だった所を整地し次々と太陽光パネルが設置されている。調べた所 町が開発しているのではなく、某会社が運営しているとの事である。それにしても大規模開発である。